

## 有機農業に関連する歴史年表(1)

- 400万年前 人類の起源  
約3万年前 旧石器時代 狩猟採集生活(農耕・牧畜の芽生え?)  
↓  
前5000年 縄文時代後期 (人口約5万人)・・・(自然農業)  
豊かな狩猟採集生活(木の实、魚介、小動物)  
定住と稲作(直播栽培)の開始  
前5世紀 弥生時代 (人口~50万人)・・・(有機農業)  
定住と集落の形成 稲作の技術革新(移植栽培=「田植え」)  
水田・水路の構築と共同管理 収穫量の増加 土地は集落の共有管理  
4~8世紀 古墳~奈良時代 (人口~500万人)・・・(有機農業)  
稲作の生産による国家の形成大陸からの渡来人の増加と仏教伝来  
病原菌の移入と人口増加による伝染病の蔓延  
土地は国有管理(公地公民制)→土地の私有化容認へ  
9~11世紀 平安時代 (人口~600万人)・・・(有機農業)  
人力による農業の生産限界、天災、気候変異による飢饉・伝染病  
農業の停滞による土地の放棄→大規模地主の発生と荘園制  
11~16世紀 鎌倉~室町(戦国)時代 (人口~1000万人)・・・(有機農業)  
牛馬による農業耕作と鉄製農具による生産力の増加  
二毛作(稲作と裏作の小麦・大麦)の開始  
製鉄(たたら製鉄)のための森林伐採による地力の低下や水害の多発  
土地の武力強奪と自衛武装→戦国時代へ  
16~19世紀 安土桃山~江戸時代(人口~3000万人)・・・(有機農業)  
太閤検地による荘園制の廃止と領地領民制へ  
山林、河川の整備と森林保護政策による災害防止と輸送路の確保  
江戸期、人口移動の制限と物流の促進(農産加工や地域産物の創出)  
堆肥や人糞尿の肥料化の技術→収穫量の増加と病虫害の発生  
農民による農業技術や思想の創出と記録→『農書』  
天災・気候寒冷による飢饉の発生  
19~20世紀 明治~大正時代(人口~5000万人)・・・(近代農業)  
富国強兵・殖産興業による近代化と農業の海外進出・移民  
公害の発生と農地への化学肥料の投入、農産物の市場売買  
20~21世紀 昭和~平成・令和(人口~1億2000万人)・・・(近代農業)  
農薬・化学肥料の普及と機械化による生産量の増加  
農村地方人口の減少と食糧の海外依存  
地球規模の環境異変(温暖化・食料難)→持続可能な社会への転換

## 有機農業に関連する歴史年表(2)

- 前4世紀 アリストテレス 腐植栄養説  
1812年 アルブレヒト・テーア 有機(腐植)栄養説『合理的農業の原理』  
1840年 リービヒ 無機栄養説『有機化学の農業および生理学への応用』  
1868年 明治維新→1871年 廃藩置県による中央集権体制  
1873年 地租改正による金銭納税化  
1894年 日清戦争  
1901年 田中正造 足尾銅山鉱毒問題で天皇に直訴(公害問題の原点)  
1904年 日露戦争  
1908年 ハーバー 空中窒素の固定に成功  
1913年 ハーバーとボッシュ 工業的にアンモニア・硝酸の生産  
1914~1918年 第1次世界大戦(毒ガスの使用・火薬の大量使用)  
1918年 武者小路実篤「新しき村」  
1926年 宮沢賢治 『農民芸術概論綱要』  
1935年 岡田茂吉 無肥料栽培(1950年から自然農法に改名)

1937年 福岡正信 自然農法の開眼(『わら一本の革命』1975年)  
 1940年 ハワード 『農業聖典』(1945 ロデイル『黄金の土』→のち『有機農法』)  
 1941~1945年 第2次世界大戦(原爆の使用)  
 1942年 食糧管理法(主要農産物の国家管理)  
 1961年 農業基本法(農業の近代化・選択的規模拡大・地域自給の崩壊)  
 1962年 カーソン 『サイレント・スプリング(沈黙の春)』  
 1963年 ケネディ大統領の暗殺  
 1965~1975年 ベトナム戦争(枯れ葉作戦=除草剤の大量使用)  
 1966年 米の完全自給達成→1969年 米の作付け制限(減反政策の開始)  
 1969年 石牟礼道子 『苦海浄土 わが水俣病』  
 1970年 ボーローグ 「緑の革命」(多収穫種子・化学肥料・農薬)による農村破壊  
 1971年 一楽照雄 日本有機農業研究会の設立(“有機農業”という言葉の誕生)  
 1974年 有吉佐和子 『複合汚染』(朝日新聞に連載)  
 1977年 環境問題の激化  
 1986年 チェルノブイリ原発の重大事故  
 1986年 バブル景気(地価高騰・拝金主義)→1992年バブル崩壊  
 2000年 「有機JAS法」制定(有機農産物の表示・流通)  
 2006年 「有機農業推進法」制定(有機農業の定義・政策)  
 2011年 東日本大震災と福島原発大事故  
 2020年 新型コロナウイルスによるパンデミック  
 2021年 農水省「みどりの食料システム戦略」(2050年に有機農業を25%に)

## 有機農業のキーワード

### 近代農業のキーワード

経済性・生産性・効率性・国際性  
 西洋科学・無機栄養・化学肥料  
 競争・成長・分業 均一性  
 殺菌・殺虫・除草・生態系破壊  
 環境汚染・エントロピー増大・開発  
 富栄養化・酸化的・分解・単純化  
 「緑の革命」・多収穫・産業化  
 巨大市場・大量輸送・貿易自由化  
 ハイブリッド・遺伝子操作・単一種  
 対症療法・サプリメント・専門化  
 添加物・アトピー・アレルギー  
 施設栽培・植物工場・ビニール  
 石油エネルギー・規模拡大  
 反自然・現実重視型

### 有機農業のキーワード

健康的・循環的・環境的・地域的  
 東洋思想・有機物・腐植・堆肥  
 協同・安定・総合・個性的  
 共存・共生・地力・生態系保全  
 環境浄化・エントロピー減少・永続  
 生物濃縮・還元的・縮合・複雑化  
 「わら一本の革命」・高品質・自給的  
 地産地消・国内自給・身土不二  
 自家採取・在来種・多品目  
 免疫力・食養・医食同源  
 自然食・一物全体・旬  
 露地栽培・輪作・間作  
 自然エネルギー・農場内循環  
 自然回帰・未来志向型

## 有機農業の思想

・「有機農業」は思想であり、哲学であり・世界観であり・生き方である。  
 有機農業の「技術」と「哲学」は車の両輪である。

### 「有機農業」と「慣行(近代)農業」の違い

#### 有機農業の思想

健康・環境・循環・永続性・地域性  
 新しい思考の枠組み(パラダイムシフト)

#### 慣行農業の思想

経済性・生産性・効率性・代替農業  
 近代化の思考の枠組みの中での環境負荷の減少(矛盾と限界)

## 「自然」というキーワード

西洋的自然観・・・物心二元論・要素還元主義・一神教・自然支配

東洋的自然観・・・陰陽一元論・全体性総合性・多神教・自然共生共存

ヨーロッパ有機農業のハワード、シュタイナーも東洋的自然観の影響を受けている。